

2018年10月23日

<東海テレビ かわら版>

# 第50回東海テレビ文化賞 宮城谷昌光氏ら 4名に決定！

**紹介番組：11月14日(水)午前11時00分から放送**

**(顕彰式は13日(火)午前10時30分～東海テレビにて)**

東海テレビ放送は、第50回東海テレビ文化賞の受賞者を決定しました。

同賞は、昭和43年の東海テレビ開局10周年に制定され、東海地方に在住または関係が深く、多年にわたり社会、文化、学術、産業などの各分野で功績のあった人や団体に贈られます。

顕彰式は11月13日(火)午前10時30分から東海テレビ放送本社(名古屋市東区東桜1丁目14-27)で行われます。

また、受賞者のプロフィールを紹介する報道特別番組「平成30年東海テレビ文化賞～道一筋に～」は、11月14日(水)午前11時00分から同11時25分まで放送されます。

受賞者の経歴と受賞理由は次の通りです。

## 第50回 東海テレビ文化賞受賞者

### 【美術分野】

くわばら ひろし  
桑原 鑛司 (74) [岐阜県] 画家 美術史家  
＜画家、美術史家として地域芸術発展に貢献＞

### 【伝統工芸分野】

しみず すいげつ  
清水 酔月 (74) [三重県] 陶芸家  
＜四日市萬古焼の伝統を継承しつつ独自の創作、後進育成に尽力＞

### 【文学分野】

みやぎたに まさみつ  
宮城谷 昌光 (73) [愛知県] 小説家  
＜中国歴史小説という新分野開拓、文学界に多大な貢献 意欲的な創作活動＞

### 【学術分野】

もり しげふみ  
森 重文 (67) [愛知県] 数学者  
＜「端射線」と言う概念を発見し、世界の数学界に貢献＞

以上

くわばら ひろし  
桑原 鑛司

昭和19年9月14日生(74) 岐阜県

画家、美術史家

清流の国ぎふ芸術祭 AAIC2017 企画委員長

清流の国ぎふ芸術祭 AAIC2020 企画委員長

### <画家、美術史家として地域芸術発展に貢献>

岐阜市生まれ。東京芸術大学美術学科を卒業し、1979～86年に岐阜県美術館学芸員を、2010～12年にヤマザキマザック美術館学芸室長を務めた。また、洋画家として個展など創作活動も精力的に続け、1995、96年にはイタリアにおいて花びらで作った巨大モザイク画を制作した。2017年に開催された「清流の国ぎふ芸術祭 AAIC2017」では、企画委員長を務めた。また、2020年に開催する「清流の国ぎふ芸術祭 AAIC2020」でも、企画委員長を務める。現在は、洋画家として制作を続けるとともに、美術史の講演など地域芸術発展に貢献している。

### <略歴>

昭和43年 東京芸術大学美術学科卒業

昭和54年 岐阜県美術館学芸員

平成22年 ヤマザキマザック美術館 学芸室長

しみず すいげつ

清水 酔月

昭和19年3月22日生(74) 三重県

陶芸家 日本工芸会正会員

伝統工芸三重研究会会長

四日市萬古作家協会会長

### <四日市萬古焼の伝統を継承しつつ独自の創作、後進育成に尽力>

四日市市出身。明治33年ごろに誕生した酔月窯は、約300年の歴史ある萬古焼の伝統を守り育んできた。3代目となる酔月は、16歳から作陶を始め四日市萬古焼の研究を重ねてきた。そして伝統的な紫泥の土を使い高品質な作成技法に加え、細かな砂を高圧で吹き付け模様を刻む独自のサンドブラスト技法を開発し、独特の柔らかな模様の調和を生み出し萬古焼きの芸術性を高めた。現在も更なる技術の向上と伝統工芸の伝承に尽力している。

### <略歴>

昭和51年 日本伝統工芸展初入選(以後29回入選)

平成 2年 天皇陛下献上(即位の礼)

11年 皇太子殿下献上

19年 四日市市産業功労者表彰

21年 台湾国立博物館収蔵

23年 日本橋三越本店 特別画廊個展

四日市市文化功労者表彰

27年 三重県文化賞文化大賞

みやぎたに まさみつ  
宮城谷 昌光

昭和20年2月4日生(73) 愛知県

小説家 直木賞選考委員

### <中国歴史小説という新分野開拓、文学界に多大な貢献>

愛知県蒲郡市出身。大学卒業後、故郷で学習塾を経営しながら執筆活動が続け、平成3年に「天空の舟」で新田次郎文学賞、「夏姫春秋」で直木賞を受賞し、脚光を浴びる。その後も、綿密な歴史調査と豊かな漢文の素養をもとに、古代中国を舞台にした壮大な物語を、独特の格調高い文体でつづる小説を次々と発表。それまでほとんどだれも手をつけていなかった中国の歴史小説という新たな分野を開拓し、文学界に新風を吹き込んだことが高い評価を受け、数多くの文学賞を受賞している。平成25年には12年の歳月をかけて連載した「三国志」を完結した。また、戦国時代の三河を舞台にした「風は山河より」や「新三河物語」など、日本の歴史小説も手掛ける。さらに直木賞や新田次郎文学賞、吉川英治文学賞の選考委員も務めるなど、日本の文学界に多大な貢献をしている。

### <略歴>

昭和42年 早稲田大学文学部英文科卒業  
平成 3年 新田次郎文学賞・直木賞  
6年 芸術選奨文部大臣賞  
8年 中日文化賞  
12年 司馬遼太郎賞  
13年 吉川英治文学賞  
16年 菊池寛賞  
18年 紫綬褒章  
28年 第57回毎日芸術賞  
旭日小綬章

もり しげふみ  
森 重文

昭和26年2月23日生(67) 愛知県

数学者 京都大学高等研究院院長  
京大名誉教授  
国際数学連合総裁  
文化功労者  
日本学士院会員

＜「端射線理論」「3次元の代数多様体の極小モデルの存在証明」など

世界の数学界に貢献＞

名古屋市出身、京都大学理学部数学科卒業後から代数幾何の研究に従事。新しい手法「端射線の理論」を考案、3次元多様体の分類と双有理変換の研究を可能にしていき、ついに「三次元代数多様体の極小モデルの存在定理」を証明する。この功績が認められ、平成2年にフィールズ賞を受賞した。京大助手、ハーバード大学助教授、名古屋大学教授などを経て、平成2年、京都大学数理解析研究所教授に。平成23年から26年3月までは同研究所長も務める。27年にアジアからの初めての国際数学連合総裁となり、昨年、米国科学アカデミー会員に選出された。

＜略歴＞

昭和48年 京都大学理学部数学科卒業  
50年 京都大学大学院理学数学専攻修士課程修了  
52年 ハーバード大学助教授  
53年 京都大学理学博士  
58年 日本数学会彌永賞(代数多様体の研究)  
59年 中日文化賞  
63年 名古屋大学理学部教授  
平成 元年 井上科学振興財団井上學術賞  
2年 アメリカ数学会コール賞  
京都大学数理解析研究所教授  
日本学士院学士院賞  
国際数学連合フィールズ賞  
文化功労者  
10年 日本学士院会員  
16年 藤原科学財団藤原賞  
27年 国際数学連合総裁  
28年 京都大学高等研究院院長  
29年 米国科学アカデミー会員